横浜市立 美しが丘西小学校　　平成30年度版　中期学校経営方針　（平成28～30年度）

学 校 概 要

創立　6　周年	学校長 江口　和良	副校長 高城　剛	学期　2　学期制	児童・生徒数　784 人
学級数 一般級：　22　個別支援級：　4		主な関係校：山内中学校・すすき野中学校・美しが丘中学校		

学 校 教 育 目 標

豊かな『感性』と確かな『学び』
【知】自ら学び、考え、ともに学び（高め）合う子どもを育てます。
【徳】さまざまな学習活動を通して感性豊かな子どもを育てます。
【体】健康で安全な生活ができる子どもを育てます。
【公】人と人、地域とのつながりを大切にする子どもを育てます。
【開】国際社会へと視野を広げる子どもを育てます。

学校の特色	□学区には保木薬師堂や古くからの地域祭りなどの伝統行事も残っており、授業に活用できる材がある。 □小学校の開校は地域の方々の長い悲願でもあり、様々な教育活動への協力は盤石である。 □PTCA（地域のCを入れて）や、元石川小学校から分かれた美しが丘西小おやじの会は定期的に学校などでイベントを行い、多くの保護者や子どもたちが楽しんで参加している。 □開校当初より、学び合いによる学習活動をテーマとして取り組み、教職員による熱心な授業研究が行われている。 ■授業を基盤とした学習活動からさらに、子どもたちが主体的、意欲的に取り組める教育活動の見直しが必要である。

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標

・学習に主体的に取り組める授業を展開し、学び合い、高め合って学習を深めていきます。
・さまざまな教育活動を通して、豊かな感性を育み、自己有用感を持たせ、自他を大切にする人権感覚をもたせます。
・地域や保護者との連携を図りながら、人と人、地域とのつながりを大切にしていきます。
・教職員が相互に啓発、連携する活気にあふれた学校運営組織の確立を推進していきます。

小 中 一 貫 教 育 の 取 組

山内中　ブロック	：山内中・山内小・新石川小・元石川小・美しが丘西小
9年間で育てる子ども像	○思いやりや感謝の気持ちをもち、互いに尊重しあって生活できる子ども ○豊かに学び合い、社会の一員として自ら判断し、責任をもって行動できる子ども
自校の具体的取組	・公開授業研究会などの小中交流を通して、中学校の実態を知り、9年間の見通しを持った学習指導と児童指導に取り組み、学ぶ力を育てる。 ・中学校生徒会による学校生活や部活動紹介や部活動体験などを活用し、中学校への安定した進級に取り組む。 ・中一ギャップの解消に向けた取組として、4～6学年で一部教科分担制を導入する。

重点取組分野	取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 担当　重点研	主体的に学習に取り組めるように、調べ学習や話し合い学習などをおこない、言語活動を充実させながら、知識を定着し、考えを深める力を育てる。	①国語科を中心に「楽しさ・興味を土台とした対話的な学び」の実現に向け、「認め合う学級風土づくり」「教材との出会い」「興味を引き出す単元構成」を視点とした授業改善を進める。②子どもの声やつぶやきに基づいた事後検討を行い、授業改善の成果や課題を検証する。③4年生以上で教科担任制を導入し、学力向上などの効果を検証する。
豊かな心 担当　特別活動	たてわり活動、全校音楽会をはじめとしてさまざまな教育活動を通して、豊かな感性や自己肯定感を育み、自他を大切にする人権感覚を育てる。	①たてわり活動に『中休み遊びタイム』を追加し、活動回数を増やすことで、異学年交流をを通じて思いやりや助け合いの心を育成する。②教職員による児童理解研修等、子どもの状況を共有する機会を増やし、学校全体で子どもの成長を見守る体制を整える。③保護者・地域と連携してあいさつが校風となる具体的な取り組みを進める。
健やかな体 担当　体育（保健）	基本的な生活習慣に関する活動に全校で取り組む。一校一実践運動の実施などクラスや個人で継続的に取り組むことにより体力向上を目指す。	①一校一実践運動の長縄跳び記録会と短縄跳び検定などを夏休みに定期的に実施し、体力アップを図る。また新体力テストの結果などから、伸ばしたい力を定め、体育科での指導を通して、その育成を進める。②養護教諭との連携により保健委員会などから体力向上や健康保持のための情報発信を行う。③食育の内容は「特色づくり」で設定
児童生徒指導 担当　特別支援教育	「美西小スタンダード」に基づき、子どもの将来のために最も大切なことは何かを考え、組織的な対応をにより、「いじめを許さない」学校風土を醸成する。	①定期的にアンケートを行い、気になる児童への積極的な教育相談をし、早期解決を図る。②YPアセスメントを行い、横浜プログラム等を活用し、一人ひとりの居心地のよい学級づくりを目指す。③毎月の職員研修を通して、いじめを見逃さない職員集団を育てる。④教科担任制導入による児童指導の充実を図る。
学校運営協議会 担当　学校運営協議会	学校運営協議会を通して、中期学校経営方針を共有し、学校の教育活動への理解を深め必要な協力が得られるようにする。	①学校運営協議会委員と充分な意見交換を行い、学校の課題を共有し、その解決に向けて地域と連携した具体的な方策を考える。②恒例となっている協議会での児童との意見交換では、引き続き「あいさつする風土づくり」をテーマに協議し、家庭・地域と連携した取組について考える。
いじめへの対応 担当　特別支援教育	児童一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また、全ての児童の「教育を受ける権利」を保障する支援を確実に実施する。	①誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進める。②児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童支援専任教諭からなるチームによる支援を進める。
特色づくり 担当　食育・地域連携	学校教育目標が目指す子ども像の具現化に向け、食育の推進と地域協働を2本柱とした本校の特色づくりを進める。	①栄養教諭との連携により食育の推進を図る。食育ワークや箸の指導などから、自ら健康に良い食べ方ができる子どもを育成する。②学校教育での地域活用の窓口として、校務分掌に地域協働担当を設定し、地域協同本部設置など、学校と家庭・地域が連携する仕組みづくりを進める。
人材育成・組織運営 担当　育成担当	教職員の専門性を高めるために、学年主任、専任を中心とした児童指導の組織的な対応と、重点研による授業力の向上に努めている。	①今後の児童数減少による教職員定数を減少や異動者の増加を見据え、育成担当を指名し常に「次を育てる意識」を大切にした全教職員による人材育成の仕組みづくりを進める。②年間行事予定にメンターチームの活動日を設定し、チームとしての課題解決に向けて取り組む。